

大学生が企画・運営 地球市民を意識したボランティア活動

THE YOUNG MEN'S CHRISTIAN ASSOCIATION

YMCA

K U M A M O T O

NEWS

July 2013
vol.494

7



YMCAの高校生が県高校定時制・通信制体育大会で熱戦

- C O N T E N T S**
- ①・② YMCA国際ユースボランティア
 - ② 水上安全キャンペーン/みんな泳げる25m運動/水泳指導実技講習
 - ③ 水前寺幼稚園 花の日
赤水保育園幼年消防クラブ 結成式
アガベNo.88「もうひとつの教育」
REPORT フィランソロビー協会 チャリティボウリング大会/香港中華YMCA 環境学習
 - ④ Life 第59回 NPO法人くらしコンシェルジュ理事長 くまもと県民交流館パレア企業体 副代表 野村順子さん②
Topics 中央リハビリティードルフィンズクラス/阿蘇アウトドアクラブ/リフレスおむた 地域のボランティア

国際ユースボランティアとは

若者たちの視野を広げるため、多方面で活躍できる場として発足した「YMCA国際ユースボランティア」。県内の大学生が中心に集まり、2008年から活動が始まりました。現在は毎月第3金曜に上通YMCAで定例ミーティングを開催。ディスカッションやディベートを通して、国際社会を知る機会となっています。また、熊本はもちろん、県外・海外でのボランティアも実行。学生が自主的に企画するものから、YMCAが主催するスタディツアーや海外YMCAとの交流への参加など、YMCAのネットワーク、ノウハウを活かした活動ができるのも特徴です。メンバーたちは様々な活動を経験することにより、自分が地球市民の一人であることを実感し、成長を続けています。今回は3名のメンバーにお話を伺いました。



熊本大学工学部3年
片橋 匠さん

国際交流は草の根の活動が大切

大学1年の時、サークルの勧誘ポスターの中に「YMCA国際ユースボランティア」を見つけ、海外に興味があったので気軽な気持ちで定

例ミーティングに参加しました。ミーティングでは、皆で一つの事柄を熱心に議論。国際問題について楽しみながら勉強できる場だと感じました。2年目には役員として企画や特別プログラム運営に携わり、3年目の現在は会長を務めさせていただいています。

具体的な活動としては、月に1回、定例ミーティングを開き、国際社会の問題などを議題にディスカッション。また、上通アーケードの清掃活動などの地域活動から、タイ・ユースワークキャンプなど、海外でのボランティア活動まで、多岐にわたっています。

大学にも「国際」を掲げるサークルはありますが、YMCAでは世界の様々な国と地域にあるネットワークを活かして社会とつながることができるのもメリットの一つです。学生にとっては貴重な体験の連続で、これらの経験を通して、日本人とは、自分とは、というアイデンティティを確立し、視野を広げていきたいと考えています。また、留学生など海外のユースと交流することで、メディアに左右されるこ



世界各国のユースとの交流

わたしと聖句



コロサイの信徒への手紙 3章1節
あなたがたは、キリストと共に復活させられたのですから、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

天に視座を

確かに、イエス・キリストがベツレヘムで生まれ、ガリラヤ湖畔で宣教し、エルサレムで十字架の死を遂げられたのは、二千年も昔のことです。今、

そこに行ったとしても、当時と同じイエス様にお会いできるわけではないでしょう。それでは、今イエス様はどこにおられるのでしょうか。十字架にかかって死んだ後、復活して天に昇り、「神の右の座に着いて」全世界を支配しておられる、と聖書は告げています。

政権交代と共に、にわかに、憲法「改正」が議論されるようになったわが国においては、今、試験の時を迎えているように思われてなりません。世界の平和のために貢献しようという日本国憲法の「原理」(国民主権・平和主義・

国際協調)を捨てて、自分の国を守ることだけを考え始めているかのようです。視野が狭くなっています。

このような時代に生かされている私たちは、天にあって全世界を支配しておられるキリストの御心を拝し、そこから私たちの生涯の使命を考えるべきではないでしょうか。キリストのおられる天に視座を定め、そこから、広くこの世界のことを見ることで、できるようになり、知恵をいただいで、御心を行うものになりたい。

日本キリスト改革派熊本教会
宮崎 彌男

多角的な視点で 物事を考える力を養う



崇城大学薬学部4年
犬童 博信さん

となく外国の情報を知ることができます。国際問題の解決は一朝一夕にはいきませんが、草の根の交流こそ大切だと感じています。YMCAがこのような活動をしていることを知らない人もいるので、もっとアピールしていくつもりです。

大学の授業の一つとして、上通・下通のバリアフリー度をチェックする体験学習に参加した際、上通YMCAがチェックポイントになりました。その時、館長の富森さんから国際ユースボランティアの話聞き、定例ミーティングに誘われて参加しました。大学ではサークルには参加していなかったため、大学や学年が違う人たちの考え方を知ることができると思い、続けることにしました。

定例ミーティングでは、毎回、様々な議題で話し合います。昨年は賛成・反対に分かれて議論をしやすいテーマでディベートをしようということに。中でも印象深いのが、慈恵病院の「こののりのゆりかご」を取り上げたことで、その後、

医療分野に進む学生としてもっと掘り下げてみようという実態を調査することにしました。インターネットや本などで調べ、さらに、実際に病院を見学し、看護師長に話を伺いました。その時の「運営する側としては、利用されない方がいい」という言葉が心に残りました。今年の1月には私を中心に企画をして「こののりのゆりかご」についてのミニセミナーを行いました。この経験を通して、物事を考える時には、一つの目線ではなく、多角的な視点で見ることが大切だと実感しました。

また、活動の中で初対面の人と話す機会が多いので、人見知りや緩和されました。今年は、留学生との交流をもっと増やしたいと思っています。英語は苦手ですが、これまでも片言で不思議と意思疎通ができたので、留学を視野に入れて学ぼうと考えています。

意見を分かち合うディベートに 手応え



熊本学園大学社会福祉学部
第二部3年
黒岩 瞳さん

YMCAで日本語を習っていた韓国の友人が縁で、外国人の日本語学習のお手伝いをする「日本語練習クラブ」に興味を持ったのが始まりで



す。その時一緒に紹介してもらったのが国際ユースボランティアの活動でした。1月に、上通YMCAの短期留学生が入国する際の手伝いをするボランティアに参加。3月に初めてミーティングでディベートに加わり、大変刺激を受けました。

私は社会人学生で、仕事と大学とで行事にはなかなか顔を出せませんが、「何かの役に立ちたい」と強く思う人たちとの会話には、いつも手応えを感じます。国際ユースボランティアのメンバーは私にとっては、弟や妹のような存在で、自分が経験したことを基にアドバイスできればと思っています。

違う立場の人たちが集まるのだから、ディベートでは衝突することもありますが、私も自分の気持ちを伝えることが上手ではありませんが、相手の発言を受け止め、意見を分かち合うことが大切だと感じています。今年1年間は、日本をテーマに展開する予定です。伝統や文化、歴史、日本人の特性、世界への貢献などを議題に取り上げ、時事ネタなどを織り込みながら意見を交換できればと考えています。



ディベートには毎回15名ほどが参加します。いろいろな人と話し合い、ふれあうことができる機会になるので、多くの人に興味を持ってほしいです。

元国際ユースボランティアメンバーからのメッセージ 出会いと経験に感謝し、自ら発信することが大切



南投YMCA
日本語講師
上野 綾子さん

私は、台湾の台中市から高速道路で30分ほどの南投県にある南投YMCAで、今年の4月から専任の日本語教師として勤務しています。私は中国語ができませんが、周りのスタッフや地域の人々に助けられながら頑張っています。

日本語教師の最大の使命は「学習者の日本語能力の向上」です。私はまだ経験が少なく、休日返上で準備をして臨んだ授業でも「先生の教え方では分からない」と言われることがあります。これまでの知識だけでは太刀打ちできないこともしばしばで、毎日が勉強です。

私が台湾で日本語教師として働くことになったきっかけのひとつが国際ユースボランティアの活動です。国際ユースボランティアでは2011年度に会長を務め、約20名のメンバーをまとめながら、国際交流や地域のボランティア、東日本大震災復興支援などに取り組みました。メンバーの中には海外出身者も数名いて、多文化共生を実体験する場がYMCAだったと言えます。今年4月、初めての授業の時に受講生から「先生は初めての授業でも緊張していませんね」と言われました。こんな度胸も国際ユースボランティアの経験で培われたと思っています。

また、熊本YMCAのユース代表として地球市民育成プロジェクトに参加する機会にも恵まれました。これは様々な国籍のユースが日本YMCA同盟の研修施設「東山荘」に集まり、英語によるリーダーシップトレーニングを受けるプログラムです。この時に知り合った国内外のユースとは今も交流が続いています。私が台湾で勤務を始めたとき知り、香港から訪ねてくれた友人もいます。

現在も国際ユースボランティアの活動が活発に続けられていると聞いて嬉しいです。後輩にあたる皆さんには「自ら発信することは大切だよ」というメッセージを送りたいです。出会いと経験に感謝しつつ、「社会を変えていきたい」「ユースの活動をよめるものになりたい」と一人ひとりが発信することが大切です。日本にも世界にも多くの問題があります。個人は微力でも一人の発信が共感を呼び、次第にそれがうねりとなって社会を変えていった事例は歴史上たくさんあります。

日本語教師1年目の私は経験不足による悩みが尽きません。しかし、私の授業を楽しみにしてくれる受講生がいる、新しい出会いがあることに感謝して与えられた仕事をするのが、今、私ができる「発信」のあり方だと信じて毎日過ごしています。

国際ユースボランティアの活動がこれからもますます活発になるように願っています。

子どもたちの水難事故を防ぎ、安全で楽しい夏を

YMCAでは、海や川、プールでの水遊びの機会が増える夏に、子どもたちが安全で楽しく過ごせることを願って、様々な活動を展開しています。

子どもたちに水の事故を防ぐための知識と技術を伝える「水上安全キャンペーン」では、各YMCAの水泳教室の中で子どもたちが服を着たまま水に入る着衣泳を体験。地域の保育園や幼稚園、小学校でも水上安全講習会を行っています。かすみ保育園では、6月20日(木)に年長・年中児と保護者を対象に実施。紙芝居で水の安全について学んだ後、リーダーによる水の事故から身を守るための寸劇が披露されると、園児たちは驚きの表情で見守りました。



みんな泳げる25m運動

また、「みんな泳げる25m運動」と称して、地域の小学校の水泳に苦手意識を持つ子どもたちを対象に水泳教室を実施。15日(土)には、ながみねファミリーYMCAで熊本市立託麻南小学校の児童11名が受講しました。上益城郡小学校体育連盟からの要請を受けて職員を派遣。計34名の教職員が、水泳が得意でない児童に対する指導法を学びました。

最初は息継ぎができず、体が沈んでしまっていた参加者が最後には横を向いて息継ぎができるようになるなど、子どもたちの達成感あふれる笑顔が見られました。19日(水)、益城町立津森小学校のプール開きに合わせ行われた出張授業では、全校児童90名が3グループに分かれて参加し、泳ぎ方の基礎を学びました。5日(水)と12日(水)には、上益城郡の教職員を対象とした水泳指導実技講習が御船町スポーツセンタープールで行われました。YMCAは、上益城郡小学校体育連盟からの要請を受けて職員を派遣。計34名の教職員が、水泳が得意でない児童に対する指導法を学びました。



水泳教室での着衣泳体験



水上安全講習会



教職員対象水泳指導実技講習

アガへ No.88

総主事 堤 弘雄

もうひとつの教育

学校教育とは別に社会教育があります。社会教育とは法律では「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーション活動を含む)」と定義されています。以前は教育委員会が所管する図書館、博物館、公民館などの社会教育施設における活動を意味する場合が多かったのですが、近年はYMCAのように社会において組織的に行われている教育活動を指すようになってきました。また、最近ではこれらの社会教育活動が、学校や市町村と連携する中で進められるようになりました。

2012年から公益財団法人の認可を受けた熊本YMCAには、社会教育団体としての期待が高まってきているように思います。たとえば、地域の小学校へサッカー、体操、水泳、レクリエーションなどの活動に指導者派遣を行うことが日常化されています。また、子どもたちの人格形成に大きな影響を与えるYMCAの野外活動(キャンプ)の案内も教育委員会や小学校の協力を得て学校で配布されるようになりました。

これからの子育てで大切なことは、子どもの教育の全てを公教育(小中学校等)のみに任せるのではなく、子どもの成長に必要な経験をする機会として社会教育活動に参加させることだと思います。特に、小集団活動(グループ活動)の経験を子どもたちにさせてあげてほしいと思います。生涯役に立つ対人関係能力やリーダーシップは小集団活動によって培うことができるからです。そして、最も大切なことは家庭教育、特に、家族(保護者)と楽しい時間を過ごすことにより心を育むことだと思います。将来、子どもが親になったとき家族(保護者)と共に過ごした原体験がそのまま生きてきます。学校教育・社会教育・家庭教育を意識しながら子どもたちを育てていきたいものです。

防火の知識と意識を高める 赤水保育園幼年消防クラブ結成式

5月16日(木)、YMCA赤水保育園の幼年消防クラブの結成式が行われました。幼年消防クラブは、子どもたちに火の大切さや怖さを伝え、火事を絶対に起こさない防火の気持ちを持ってもらおうと、2001年に設立し、赤水保育園の年中・年長児がメンバーとなっています。



今年は園児37名がはっぴ姿で結成式に参加。阿蘇市副市長、阿蘇広域消防本部長など多くの来賓や保護者が見守る中、代表の園児が「絶対に火遊びはしません」「お父さん、お母さん、先生方のおしえを守ります」「礼儀正しく素直な子どもになります」と、防火の誓いを宣言しました。

通常点検では、号令にあわせて整列・行進などを実施。その後、ミニ腕用ポンプでの放水訓練が行われました。園児たちの元気で機敏な動きに、大人たちから大きな拍手が送られました。

結成式後は、保護者や先生の代表がはしご付消防車に試乗。消防士や保護者による防火に関する〇×ゲームなども実施され、子どもたちは防火の知識と意識を高めました。

感謝の気持ちと花を届ける 花の日

6月第2日曜日の「花の日」にちなみ、毎年この時期にYMCAの幼稚園や保育園、体育英語幼児園の子どもたちが、日頃お世話になっている地域の人たちに花を届けています。



YMCA水前寺幼稚園では、6月7日(金)、各家庭から持ち寄った花で遊戯室を飾り、日本福音ルーテル熊本教会牧師の杉本洋一さんと給食でお世話になっている亀井ランチの栄養士の広瀬美和さんを迎えて、花の日礼拝を行いました。

その後、年中組は地域の郵便局と絵画展示でお世話になっているコンピニエン スストア、年長組は出水南小学校、消防署、交番に花とメッセージボードを届けました。届けられた花が早速飾られる様子に、子どもたちの喜び顔が見られました。

REPORT

香港の大学生が熊本で環境学習

■日程/6月11日(火)～6月17日(月)
■場所/熊本県内各地



香港で活発なボランティア活動を展開するユニバーシティYMCAの大学生16名と香港中華YMCAの職員1名が環境学習のために熊本を訪れました。水俣病学習、リサイクル工場見学、竹書と阿蘇草原維持管理の学び、熊本市内の小学生と環境学習を通じた国際交流などを実施しました。香港も環境汚染は身近な問題で、各プログラムでは、盛んに質問やディスカッションが交わされました。

職員 富森靖博

いい汗流して社会貢献！ 第11回チャリティボウリング大会

■日時/6月12日(水)18時45分～21時
■場所/マスターズボウル熊本

YMCAフィランソロピー協会チャリティボウリング大会が開催され、17企業・団体の136人が参加しました。隣のレーンのチームと握手・名刺交換をしてゲームスタート。参加者はストライク1回につき100円を募金しました。大会の益金と募金は、児童養護施設の子どもたちをデイキャンプに招待する活動に役立てられます。



Life

第59回

“いのち”“生活”
“いきがい”をテーマに
したメッセージ。



NPO法人くらしコンシ
ルジュ 理事長
くまもと県民交流館パレ
ア企業体 副代表

野村 順子さん ②

自己肯定感を高めながら、 他の人の多様性も認め、支え合いましょう

母親同士の交流を図る子育て親子サロンを開いたことで、同世代の人と人をつなぐことの大切さに気付きました。その一環として、団塊の世代の男性に地域資源となってもらうための取り組みを行っています。介護や料理などの講座を開催し、男性の地域社会への参加を促します。自分の存在が社会から必要とされていると分かると、人は輝きを増します。今の社会は、さほど男女差を感じることなく参画でき、個々が役割と責任を持つことで、輝いて生きていける時代だと思っています。幸せの価値、基準は人それぞれ異なります。“自分らしさ”を大切に自己肯定感が高められると、自分と他者との違い・多様性を認めることができるようになります。「あなたはあなたのままがいい」と認め合い、支え合ってほしいものです。

求職や社会参画の機会を求める際、相談窓口を知らない人も多いようです。それでは就職先の探し方も狭くなってしまいます。セーフティネットの制度を活用すると、同じ境遇にいる人の存在を知り、自分は一人ではないことに気付きます。人は、「助けて」と言える関係があるととても楽になるもの。私たちは完全・完璧ではないと認識し、誰かがその不足を補ってくれると考えてみてはいかがでしょうか。

国際青少年平和セミナー

国際平和都市広島で国内外の若者と平和について考える3日間

テロ・戦争・人権問題・環境破壊・経済格差拡大など、現代社会には、解決しなければならない多くの難問が山積みされています。このような時代に被爆都市広島にさまざまな地域から若者が集まり、平和について共に考えることは大変大きな意義を持ちます。

セミナーは被爆者の体験談、核兵器の話、平和構築や国際協力などの分野で活躍されている講師の方々による講義やワークショップ、そしてグループ・ディスカッションなどで構成されています。その他、原爆資料館の見学や、平和公園内の記念碑をまわるフィールドワークを行い、8月6日の平和記念式典にも参列します。

期 間:8月4日(日)~6日(火)

場 所:広島YMCA・広島平和記念公園

対 象:高校生・専門学校生・短大生・大学生

参加費:50,000円(熊本~広島の交通費含む)

※熊本YMCA地球市民育成基金の助成申請により20,000円で参加可能(助成を受けるには申請が必要です。申請条件等詳しくはお問い合わせください)

主 催:広島YMCA

申込期限:7月17日(水)

お問合せ/熊本YMCA ICR TEL 096-353-6397 FAX 096-324-7877
E-mail icr@kumamoto-ymca.org



TOPICS 地域YMCAにまつわる人・モノ・場所などを順番にご紹介します。

夏のリパティードルフィンズクラス 中央



中央YMCAのリパティードルフィンズクラスでは特別支援を必要とする子どもたち向けに、学習支援を行っています。一人では上手くできない学校の宿題や、YMCAに準備してある苦手克服のプリントを、リーダーといっしょに取り組んでがんばるクラスです。先日、コツコツ練習をして見事漢字検定に合格したことを、少し照れながら報告してくれたメンバーがいました。書くことが苦手なメンバーが今度はパソコン検定にも挑戦します。熱さも吹っ飛ばすパワーです。

中央YMCA 白木優子

阿蘇アウトドアクラブ 阿蘇



阿蘇アウトドアクラブでは子どもたちが、年5回、様々な活動を行っています。今年度第1回目の6月1日(土)のテーマは「科学実験キャンプ」。参加した10名の子どもたちは目を輝かせながら、熱気球やシャボン玉、スライム作り、音の伝わり方を体験する糸電話などの実験を楽しみました。熱気球は、雨のため巨大気球こそ作れませんでした。一人で飛ばすミニチュア気球に挑戦。全員の気球が見事に空中に舞うと同時に、大きな歓声がありました。

阿蘇YMCA 大久保和生

地域のボランティア リフレス



リフレスおおむたでは、子どもたちが田植えをし、秋に収穫するプログラムを行っています。毎年、地域の農家の人たちにボランティアで指導していただいています。

田植えの時期、それぞれの農家はとても忙しいのですが、ボランティアの皆さんは子どもたちに丁寧に教えてくださいます。このような貴重な農業体験ができるのは、地域の人たちの協力のおかげです。これからもリフレスおおむたは、地域の皆さんと共に成長できる場を大切にしていきたいです。

リフレスおおむた 秋寄光輝

Kumamoto YMCA Network

中央YMCA	☎096-353-6391	水前寺幼稚園	☎096-362-4141
YMCA学院	☎096-353-6393	阿蘇YMCA	☎0967-35-0124
YMCA学院高等学校	☎096-353-6391	赤水保育園	☎0967-35-0024
本部事務局・ICR	☎096-353-6397	尾ヶ石保育園	☎0967-32-0213
みなみYMCA	☎096-378-9370	永草保育園	☎0967-32-0810
上通YMCA	☎096-352-2344	黒川保育園	☎0967-34-0402
東部YMCA	☎096-382-6661	リフレスおおむた	☎0944-58-7777
ながみねファミリーYMCA	☎096-385-0676	就労継続支援	
むさしYMCA	☎096-248-6334	A型事業所WELL-B	☎096-312-1333



キャラクター・ディベロップメント推進中

野外活動クラブでは、毎月、活動のテーマに沿ったキャラクターディベロップメントの目標を立てています。6月、サタデーインディアンズクラブが環境学習をテーマに活動した際の目標は“人と自然を大切にしよう”。出発時にみんなで目標を確認し、閉所式で振り返りを行ないました。これからも、野外活動を楽しみ、人と自然を大切にしながら、人格の向上を目指す活動を展開していきます。(みなみ 山田真二)



【基本聖句】喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマの信徒への手紙12章15節)

熊本YMCAの使命

共に生きる社会
ウェルネス活動

地球環境の保全
ボランティア活動

生涯学習の推進
平和な世界

■ホームページ www.kumamoto-ymca.or.jp

■メールマガジン登録
www.kumamoto-ymca.or.jp/cgi-bin/mail/mail.cgi

